

関連項目：教育活動プラン③、④

人とのかかわりから学ぶ異学年交流活動の工夫・改善・支援のあり方

目的

本校では、縦割りなかよし班活動で、6年生が思いやりをもって下級生にかかわったり、リーダーシップを発揮したりする姿が受け継がれている。だが、小規模校で育った子どもの中には、中学進学後、良好な人間関係を構築できない子もいる。そこで、主体的に活動したり困難な課題を乗り越えたりする集団活動を通して、思いやりだけでなくたくましさや強さを身につけた児童の育成を図っていきたいと考える。

内容

● チームに分かれて活動を支援する

本校では、なかよし班活動を大きく春の遠足、秋の遠足、めざましタイムの3つのチームに分け、全教員をそれぞれのチームの担当としている。前年度の反省や児童の実態などを考慮し、活動を見直し、工夫改善を図っている。

めざましタイムは、朝の15分の活動で週一回行っている活動である。友だちと触れ合いながら、楽しく体を動かしたり、ゲームを行ったりしている。集団への帰属意識や高学年のリーダー性をより高め、好ましい人間関係を作ることをねらいとしている。子どもたちにとってよりよい活動にするために、チームで話し合い、年間の活動を設定している。運営もチームで協力して行っている。なかよし班活動を一部の担当で行うのではなく、全教員で分担し、行うことで、教員が幅広く全校児童や全校の運営にかかわろうとする意識が高まっている。

● 話し合いで意思決定をする場を設定

春、秋の遠足では、話し合い活動を中心に設定している。特に秋の遠足では、コース選択と班の活動内容を班ごとの話し合いで決定していく。コース決定の場では、各班の第3希望までを一覧表にして提示する。自分の行きたいコースの希望が少ない場合、コースとして成立しなくなることもあるので、一覧表を見ながら再度検討したり、他の班を誘ったりしながら話し合いで折り合いをつけ、最終的に決定していく。スムーズな話し合いにはならないが、子どもたちにとって納得しながら話し合いを進めていく貴重な場になっている。

● リーダー育成に向けた各学年のつきたい力の明確化

各学年段階によって、リーダー育成に向けてつきたい力を活動ごとに洗い出し、評価表として一覧表を作成した。年間10回の活動時に活用し、班の子どもの様子をチェックし、評価している。一覧表があるので、自分の担当学年の前後の項目も理解できる。自分の担当学年でつきたい力が明確なので、子どもへの事前・事後指導が確実にでき、リーダーだけが育つ縦割り班活動にならない。また、記録した評価カードを毎回全教員に配布することで、全校児童の様子も分かり、子どもへの評価や声かけなどにも役立っている。



フラフープをつかったゲーム



砂浜で遊べるからこのコースがいいな。

| ○班 | 6年 実況 | 5年 日記 | 4年 実況 | 3年 日記 | 2年 日記 | 1年 日記 |
|----------|---------------------------------|---------------------------------------|--|-----------------------------------|---------------------------|---------------------------|
| 春の遠足のめあて | 一人一人の意見をよく聞き、みんなが納得できるように声をかける。 | 積極的に発言したり、意見をよく聞き、全体のことを考えて決めることができる。 | 下級生のことや考えながら、遠足でやりたい遊びやめあてについて考えることができる。 | 順番つけて自分がしたい遊びを話し合いの手を意見を聞くことができる。 | 班ごとの話し合いができて、意見を聞くことができる。 | 班ごとの話し合いができて、意見を聞くことができる。 |
| 様子 | ***** | | | | | |

春の遠足の評価項目

成果

こうした取り組みをすることで、6年生だけでなく、低・中学年のなかよし班活動への参加が積極的になり、話し合い活動も活性化した。(児童アンケートの結果： 協力について92%、人の役に立つ76%)

また、教員一人一人がなかよし班活動の運営にかかわることで、関係学年だけでなく全校児童の取り組みを考えることを通して、より多くの児童とかかわる場も増え、全教職員で子どもたちを育てる意識も高まっている。

